

2017/3

# すいた 商工会議所 ニュース

THE NEWS OF SUITA CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY

URL <http://suitacci.com/> 会議所でほっと笑顔に

吹田商工会議所報 平成29年3月10日発行（毎月1回10日発行）第36巻第12号 通巻第429号 平成5年1月21日第三種郵便物認可



榎本薬品株式会社 本社

## 地域医療機関と患者様にとって より安心安全な医薬品の提供を目指す

榎本薬品 株式会社

代表取締役社長 榎本 時一 氏

榎本薬品株式会社は、大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀の関西2府3県を営業地域とするジェネリック医薬品専門の卸売会社です。吹田市南金田に本社を構え、東大阪、京都、神戸に支店を築かれています。患者様へより安心安全なジェネリック医薬品を広めていくために、昨年から東京大学、吹田市との産学官連携事業にも取組まれています。榎本時一社長と、同連携事業の責任者である榎本真宏経営戦略室長にお話を伺いました。



代表取締役社長 榎本 時一 氏

## ——貴社の沿革についてお聞かせください。

昭和26年4月、先代社長が大阪市中央区道修町にて「榎本薬品商店」を創業したのが始まりです。当初は、小売も行っていましたが、1973年(昭和48年)4月に、小売部門を廃業して卸部門を拡張するため、本社を吹田市南金田に移転しました。

事業拡張に伴い、支店網も広げています。昨年には、医療産業都市として先端医療技術の研究拠点となっている神戸市のポートアイランド内に進出し、3支店目となる神戸支店を開設しました。

また、本社ビルも手狭になり、吹田市内に移転する準備を進めているところです。

## ——貴社の事業内容について、教えていただけますか。

医療用医薬品とは、医師の診断により、患者様の症状に合わせて処方される医薬品です。当社では、特許期間満了後に発売されたジェネリック医薬品の専門卸会社として、メーカーから高品質の医薬品を仕入れて、病院や診療所、保険調剤薬局等へ迅速にお届けするなど、医療現場のあらゆるご要望にお応えしています。医薬品のアイテム数は膨大で、必要とされるお薬をお届けするために、1日に何度も配達することもあります。

ジェネリック医薬品は、新薬と同一成分で同じ効き目ですが、その効用に疑問や安全面での不安を持たれている医療従事者や患者様もいらっしゃいます。そのため、医薬品に関する知識の収集や、研修等による人材育成も欠かせません。

さらに、昨年、医師である榎本真宏を経営戦略室長に任命し、ジェネリック医薬品に対する正しい知識を普及させようと、産学官連携事業をスタートさせました。

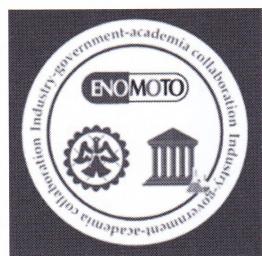
## ——産学官連携事業について、榎本室長にお伺いします。

現在、特許を申請中ですが、医療機関からジェネリック医薬品の市販後製品情報を収集するWebアンケートシステムの構築を進めています。その新事業を医薬品の販売事業の延長線上として位置づけ、収集した情報は、東京大学先端科学技術研究センターにおいて客観的にデータ解析します(右上図)。システム開発も概ね終了し、4月からの運用開始予定となっています。

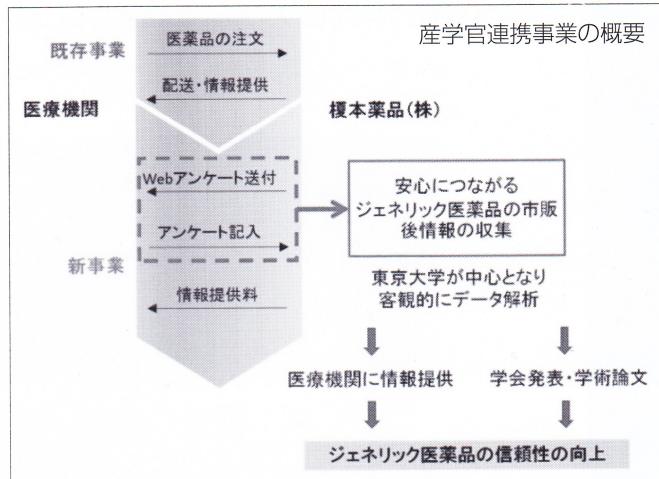
私自身も医師として医療現場に携わっておりますので、解析の結果、製造メーカーの違いによるジェネリック医薬品の臨床的な差がないことを証明でき



経営戦略室 室長 榎本真宏 氏



産学官連携ロゴマーク



ると考えております。こうした製品情報を医療従事者や患者様にお伝えできれば、不安を安心に変えることができ、ジェネリック医薬品の信頼性向上につながるものと思っています。

当社と東京大学の提携事業は、平成28年度の「吹田市地元企業等共同研究開発事業補助金」の対象事業にも認定されました。当社としては、初めての産学官連携事業となります。

## ——榎本社長、今後の展望を聞かせてください。

国は、ジェネリック医薬品の普及に力を入れています。その中で、当社も第二の創業ともいえる転換期、発展期を迎えています。社業の拡大発展はもちろんですが、産学官連携事業での分析結果を元に、ジェネリック医薬品の正しい知識の提供と普及により力を注いでいきたいと思っております。

## ——お忙しい中、貴重なお話をいただきありがとうございました。今後益々のご発展をご祈念申しあげます。

### 榎本薬品 株式会社

〒564-0044 吹田市南金田2丁目8-37

TEL : 06-6385-1401

FAX : 06-6330-0465

<http://www.enomoto-yakuhan.co.jp/>